

魚沼市次世代育成支援行動計画(後期計画)平成25年度事業評価シート

施策(網掛け)及び取組・事業 No.	事業の内容	部署	21 年度	22 ~ 26 年度	事業実施状況				事業評価欄										備考				
					評価 除外	25 年度 実施 事業	25 年度 公表 対象 事業	進捗状況(内容)	評価		検証 の 状況	評価(該当室)								課題、評価事項(成果)	方向性、見直し提案等		
									判定	各 項目 平均 点		子 ども 課	学 校 教 育 課	生 涯 学 習 課	健 康 増 進 室	厚 生 室	商 工 振 興 室	ま ち づ く り 室					
子育て施設の有効利用の促進																							
1	保育園・幼稚園の開放	子ども課	実施	強化継続		○	○	昨年度と同様に実施。参加者は各園により増減はあるが全体平均では横ばい状態である。入園前に園の様子を保護者に見てもらう場にもなっている。	B	3.8												実施園が1園増加した。親同士が顔見知りとなり交流の場にもなっている。	入園前に施設を利用できることは、子ども・子育て支援法の利用者支援とも関連し今後も重点事項となる。
2	子育て支援センター開放「No.15 休日開放」「No.46 自由遊び開放」「No.47 年齢別解放」をまとめる。	子ども課	実施	継続		○	○	堀之内子育て支援センターでは平日の9:00~15:00、小出子育て支援センターは平日の9:00~16:00及び第1・第2土曜日の9:00~11:30の開放を実施した。 1月末までの延べ利用者 堀之内：3,749人 小出：16,369人	B	3.3	済	3										児童保育の実施場所が移動したため、療育教室実施スペースが生まれ、午後の開放を休まなければならない日が4か月健診の日だけになった。 小出子育て支援センターは、利用者が増加している。 自分の子どもに注意が向かず、他の保護者のおしゃべりに夢中になっている保護者が見られる。	このままで継続する。
乳幼児健康支援一時預かり事業(病後児保育)の充実																							
3	乳幼児健康支援サービス事業	子ども課	実施	継続		○	○	堀之内子育て支援センターで、病後児保育を実施した。 1月末までの延べ利用者15人。	B	3.3	済	3										利用手続きが煩雑で利用しにくいとの意見が寄せられている。また、病児保育の要望も年間数件ある。 (医師や看護師が常駐する施設で無いため、看護師の確保と児の様子把握のために前日までの申し込みとしている)	病児保育も含め、新小出病院での実施の可否を検討する。
乳幼児保育受入れ児童の拡充																							
4	保健師等による保育園の巡回	子ども課		実施検討		○	○	公立保育園の未満児保育施設を、支援センターの看護師が訪問し環境確認を行った。	B	3.0	未	3										未満児の保育需要が増加しており、その環境整備は重要である。	未満児が多い園への、看護師配置を検討する必要がある。
地域子育て支援センター事業																							
5	出張子育て支援センター(すくすく広場)	子ども課	実施	継続		○	○	守門会場・入広瀬会場とも、年10回開催 守門会場・入広瀬会場とも9回開催し、守門延94人、入広瀬延74人参加(1月末現在)	B	3.3	済	3										子育て支援センターから遠方に住む保護者からは喜ばれている。	当面このまま継続するが、委託が可能か検討する。
保育園、幼稚園開放と子育て相談の推進																							
6	保育園での育児相談	子ども課	実施	強化継続		○	○	前年同様、園の開放日にあわせて実施。相談件数は各園により増減あるが横ばい傾向。	A	4.3	済	4										実施園が1園増加した。 保育士への子育て相談のほかに、親同士が仲間となり悩みを打ち明けあう場所づくりに一役担っている。	親支援は重要な課題であり、親が相談できる場としてさらに利用しやすくする工夫が必要。
様々な社会資源や団体の連携による児童健全育成の取り組み																							
7	うおぬま放課後子ども教室	生涯学習課	実施	継続		○	○	市内9校のうち6校で実施。学校の空き教室等を活用して実施している。また、今年度は試行として、ほりのうち教室で、放課後児童クラブとの連携を開始した。	A	4.3	済				4							放課後の居場所づくりとして6小学校で実施しており、参加者は概ね増加している。安全管理・ボランティアの確保が課題である。	放課後児童クラブと連携など、子供たちを取り巻く全体的な放課後活動の支援対策を設計し、その中ででの位置づけにしていってほしい。
8	子育てセミナー	生涯学習課	実施	継続		○	○	小学校：「入学前の親の心得」 参加者：253人 講師：元小学校長ほか 中学校：「中学入学を迎えての心構え」 参加者：327人 講師：元中学校長	A	4.3	済				4							事業効果を高めるため、多くの保護者が参加する場である就学検診時や学校入学説明会などを利用して、時事のテーマを取り入れて家庭教育セミナーを開催している。	現状どおり、学校等と連携して実施
親になるための準備と産じょ期支援																							
9	パパ・ママ準備教室	健康増進室	実施	継続		○	○	平成24年度よりマタニティリラクゼーションを加えて実施。 参加者数：30組(1月末現在)	A	4.3	済				4							妊婦疑似体験やグループワークでは妻をねぎらう言葉や他の参加者の意見を聞くことが参考になった等多くの意見ある。リラクゼーションをとり入れたことで夫婦で取り組めるきっかけとなっている。	医療機関と連携を図りながら、教室の内容を検討していく。
健康増進事業の充実																							
10	1歳よちよち教室(旧1歳歯みがき教室)	健康増進室	実施	内容を精査して継続		○	○	10回実施済み。(1月末現在)	B	3.7	済				4							平成25年度から事業名を変更して実施した。 講話の内容も親子のかかわりの大切さや生活リズムの大切さに重点を置いて実施した。	継続して実施していく。

魚沼市次世代育成支援行動計画(後期計画)平成25年度事業評価シート

No.	事業の内容	部署	21年度	22～26年度	事業実施状況			事業評価欄										備考					
					評価除外	25年度実施事業	25年度公表対象事業	進捗状況(内容)	評価		検証の状況	評価(該当室)							課題、評価事項(成果)	方向性、見直し提案等			
									判定	各項目平均点		子ども課	学校教育課	生涯学習課	健康増進室	厚生室	商工振興室				まちづくり室		
11	乳幼児・妊産婦健康相談会	健康増進室	実施	内容を精査して継続		○	○	予約制の相談会をやめ、「乳幼児健康相談」として、各健診や教室の中で相談に対応している。また、電話相談等も随時受け付け、対応している。相談先一覧、相談先カードを様々な機会に配布。	A	4.3	済									必要な時にすぐに見られるように、相談先一覧表をカードサイズで作成し、健診で配布。子育て支援センターにも置かせてもらっている。	継続。		
12	むし歯予防教室	健康増進室	実施	継続		○	○	希望のあった園で実施済み。	B	3.3	済									目標値は「12歳児のむし歯有病率を35%以下にする」である。平成23年度に12歳児のむし歯有病率は28.5%で、目標を達成し、H24年度には23.4%と更に良好な状態である。	一定の効果があると考えられるため継続実施とする。H26年3月に魚沼市歯科保健計画策定予定であり、実施方法等を検討していく必要がある。		
「食育計画」に基づいた食育の推進									B	3.6													
13	離乳食講習会(ステップ1)	健康増進室	実施	継続		○	○	10回実施済み(1月末現在)。	B	3.3	済												
14	離乳食講習会(ステップ2)	健康増進室	実施	継続		○	○	10回実施済み(1月末現在)。	B	3.3	済												
15	離乳食講習会(ステップ3)「No.87 幼児食講習会」をまとめる	健康増進室	実施	継続		○	○	10回実施済み(1月末現在)。	B	3.3	済												
確かな学力の向上									B	3.0													
16	外国語指導助手(ALT)招致事業	学校教育課	実施	継続		○	○	外国人ALT2名、日本人ALT2名で実施。	B	3.0	未		3							外国人ALTと接することで児童生徒が英語や外国文化に興味を持ち、国際理解を進める素地を醸成することに寄与した。小学校の外国語活動に日本人ALTを派遣し、授業支援を行った。ALTのいっそうの有効活用を検討する。	外国人ALTの勤務時間の曜日による割り振りを変更し、学校の派遣要望に柔軟に対応し、いっそうの活用を図る。本年度で小学校の外国語活動必修化から3年となり、教員も授業に慣れてきたため、ALTの派遣を縮小する。		
健やかな体の育成									B	3.8													
17	魚沼の自然環境学習推進事業	学校教育課	実施	継続		○	○	平成25年度は、市内8校から311人の児童が参加した。	A	4.3	済		4							参加児童が尾瀬で学んだことについては、各校創意工夫しながら発表資料を作成し、子ども環境フォーラム(主管:環境課)の場で成果として披露されている。	現状どおり実施。		
子どもたちの文化的活動の推進									A	4.3													
18	地区公民館・分館講座「No.6 地区公民館分館講座」をまとめる。	生涯学習課	実施	継続		○	○	夏休み、冬休みの期間にチラシ、広報を通じ募集し実施した。	A	4.3	済			4						学校を通じてチラシの配布を行ったが、参加者がそれほど増加していない。今後の募集方法について更に検討を行う必要がある。	データ放送を活用するなどメディアを有効利用する。		
スポーツ活動推進のための企画立案									A	5.0													
19	各種スポーツ団体への支援	生涯学習課	実施	継続		○	○	体育施設等利用料の全額免除。全国大会以上への出場者に激励金交付。スポーツ団体バス運転支援を行った。	A	5.0	未			5						スポーツ少年団が大会に出場する際にバスの運行支援をしている。全国大会出場者への激励金交付は回数制限を無くし交付している。体育協会を通じてスポーツ少年団の活動に補助金を交付している。	現状どおり実施。		
幼児教育等の充実と情報提供									B	3.1													
20	ブックスタート	生涯学習課	実施	継続		○	○	毎月2回、1歳の誕生日を迎えた赤ちゃんとその保護者を対象に、子育て支援センターばびぶと広神図書館で実施。絵本のプレゼントと併せて絵本を開く楽しさをPRした。	B	3.3	済			3						ブックスタートバック(絵本・コットンバッグ等)の引渡し率は昨年度と同程度の80%前後。他課所管の乳児健診で関連リーフレットを配布してもらっている。	現状どおり実施。		
その他の教育関係一覧									B	3.2													
21	奨学金	学校教育課	実施	継続		○	○	平成25年度は、新たに大学生19人・専修学校7人・高等学校2人に貸与を開始した。	B	3.3	済			3						返還金の徴収率は、平成25年度分で96.7%、過年度分で28.1%となっている。(H25.1末現在)引き続き返還金の徴収率の向上に向けて、滞納者との交渉に粘り強く取り組みたい。	現状どおり実施。		

魚沼市次世代育成支援行動計画(後期計画)平成25年度事業評価シート

No.	施策(網掛け)及び取組・事業	事業の内容	部 署	21年度	22～26年度	事業実施状況				事業 評 価 欄										備 考				
						評価除外	25年度実施事業	25年度公表対象事業	進 捗 状 況 (内容)	評価		検証の状況	評 価 (該当室)								課題、評価事項(成果)	方向性、見直し提案等		
										判定	各項目平均点		子ども課	学校教育課	生涯学習課	健康増進室	厚生室	商工振興室	まちづくり室					
		子育て支援策について事業所への意識啓発の促進								B	3.3													
22	中小企業人材育成事業	人材育成に関して研修を受けた場合、研修費の一部を企業に対して助成する	商工振興室	実施	継続				1月末現在、短期研修8件22名交付額164千円、長期研修1件2名200千円、進捗率91%。受講生は昨年度18名、今年度24名で増加している。市主催の研修会も昨年度24名、今年度26名の参加があり増加している。	B	3.3	済							3		同一事業所から申請が多いものの研修受講者は増加している。平成24年度から市主催の研修会を開催し好評を得ている。	参加人数は増加しているが、同一事業所からの申請が多いため、多くの事業所から申請及び研修会に参加してもらえるよう事業内容を精査し周知・広報に取り組む。		
		交通安全教育の推進								B	3.3													
23	交通安全教育	市内の園、小中学校対象に教材を利用した交通安全教室等の開催	まちづくり室		実施				市内の園、小学校の依頼に応じ、模擬信号機等を使用して交通安全教室を実施した。(全23回)	B	3.3	済								3	主に春から夏にかけて、市内の園・小学校を中心に、横断歩道の渡り方や自転車の安全運転指導等を、魚沼市交通指導員や小出警察署と連携し、交通安全教材等も活用しながら実施した。市内全ての学校等に対し実施できておらず、実施の場合でも指導員等が確保できるか日程上に問題がある点、教育器材も損傷が激しく、高価で購入が難しいため今後の使用が懸念される点は、引き続き課題として残るところである。	一つでも多くの園・学校等から交通安全教室を実施してもらえるような取り組みを行うよう努める。		
		通学の安全と不審者情報の共有化								B	3.3													
24	児童生徒の安全確保事業	各地区のスクールガード(ボランティア)による通学時の見守	学校教育課	実施	継続				H24年度まで入広瀬地区は老人クラブの自主事業としてスクールガード的な役割を担っていたが、H25年度は入広瀬地区もスクールガードとして登録され、市内全小学校で353名の登録があった。研修会等を通じ、不審者情報や通学路危険箇所等の共通認識を持ち、安全な登下校を支援している。	B	3.3	済							3	スクールガード登録数は前年の396人から大幅な減少となっており、登録を呼びかける必要がある。	H25年の年末に、連合自治会長会議等でスクールガードの登録を依頼したほか、学校等と連携し、登録を呼びかけたい。			
		被虐待児家庭への支援								B	3.3													
25	養育支援訪問事業	養育支援が必要な家庭に対して、訪問による支援を行う。	子ども課健康増進室	実施	強化継続				保健師等が訪問指導にあっている。	B	3.5	未								3	4	養育環境に問題のある家庭には、保健師等が家庭訪問を行い支援している。	虐待予防の観点から継続実施とする。	
		障害児等要支援者への一貫した支援体制の整備								B	3.1													
26	つくしプレー教室	発達に課題のある就園前児童の療育教室	子ども課	実施	継続				1月末現在、水曜クラスと木曜クラスの2クラスで、対象児18人。	B	3.3	済								3	年度により、参加児人数の変動が大きく、計画的な教室運営が難しい。非常勤職員中心の運営のため、知識の蓄積が課題である。	研修会の実施を通して、保育士の知識や技術の向上を図る。実施体制の検討を行う。		
27	ステップアップ教室	発達に課題のある就学前児童の療育教室	子ども課	実施	継続				1月末現在、3クラスで対象児20人。	B	3.3	済								3	年度により、参加児人数の変動が大きく、計画的な教室運営が難しい。非常勤職員中心の運営のため、知識の蓄積が課題である。	研修会の実施を通して、保育士の知識や技術の向上を図る。実施体制の検討を行う。		
28	支援ファイルの活用	教育、医療、福祉、労働等の関係機関と連携による相談支援を継続的に実施するための「相談支援ファイル」を作成、活用	厚生室 学校教育課 子ども課		実施検討⇒実施・継続				(厚生室) H25年度全体配付数 22冊。 在庫切れに伴う改訂版の作成 120冊。 (子ども課) ステップアップ教室参加児の保護者にファイルを配布し、使用方法等を説明した。	B	2.8	済							2	3	(厚生室) H25.11.26関係者会議を招集 【意見等】 保⇒小へのファイルを活用した連携の実態がよくわからない。活用されていない可能性がある。 20歳到達後の障害年金の受給申請には客観的なツールとなる。 (子ども課) 5歳児の段階では、保護者は我が子の将来について漠然とした不安はあるが具体的にはなっていないため、ファイルの有効性等が伝わりにくい。	(厚生室) 入園時、入学時等進路の節目にパンフ等で保護者への周知を図る。 【活用に向けた取り組み(案)】 保護者向けパンフ配付、ファイル配付時の説明保育士、教諭向け教育局における活用啓発(子ども課) 様々な機会を捉えた啓発が必要である。		
		保育園や放課後児童健全育成事業等における障害児の受け入れ								B	3.3													
29	相談支援事業	「うおぬま相談支援センター」に委託し、身体、知的、精神、発達障害等を対象に様々な相談に対応するとともに、関係機関との連絡調整を図る。	厚生室	実施	継続				H26年12月末現在、延べ 400件の相談(うち、障害児相談は92件)を受け、支援にあっている。また、ステップアップ教室等へ専門的な立場として参加し対応している。	B	2.3	済								2	事業評価を行ううえでの指標の設定が無い。	指標 相談者の満足度⇒相談者のうちサービスを必要とする方について提供したサービスがニーズを満たしているかを検証。統計手法によっては相談員に負担が大きくなりそうである。		